

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 49 号

第 49 週 (12月 5日 ~ 12月 11日)

発行年月日:平成17年(2005年) 12月 16日

発行 行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

今週の感染症動向

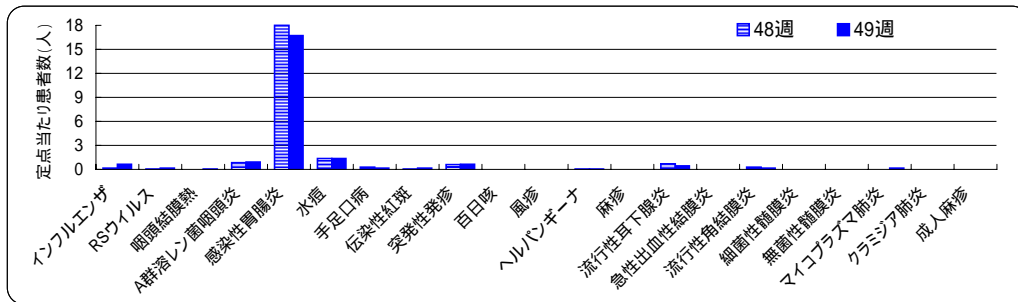
感染性胃腸炎の発生は、8週ぶりにやや減少 インフルエンザの発生はやや増加

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(11月28日~12月4日)の報告数よりやや少なくなっています。今週、増加を示した疾患はインフルエンザ、RSウイルス感染症、A群溶レン菌咽頭炎等で、減少した疾患は感染性胃腸炎、手足口病、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等です(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、感染性胃腸炎については第42週(10/17~10/23)以降連続して増加し、今週は8週ぶりに減少していますが、12月8日に長浜保健所管内でノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生がありましたので今後も引き続き感染予防についての注意が必要です。

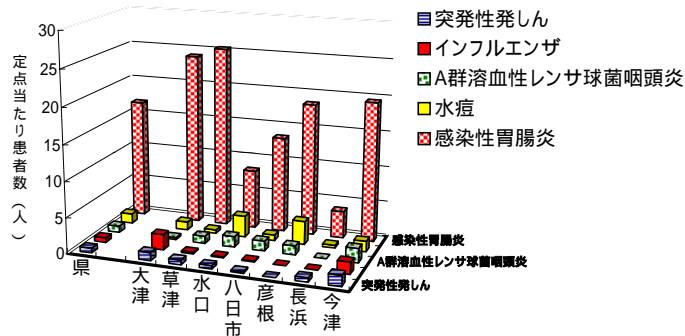
今週は全数報告感染症の届出はありませんでした。

定点把握の対象となる5類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象5類感染症、第49週、定点当たり患者数)

県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、感染性胃腸炎、水痘、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、インフルエンザ、突発性発疹の順に多く発生しています。
インフルエンザは大津および今津で、水痘は水口および彦根でやや多くなっています。



インフルエンザに対する一般的な注意

滋賀県感染症発生動向調査におけるインフルエンザの定点当たり患者数は第46週(11/14~11/20)以降徐々に増加し、今週の定点当たり患者数は0.65となっています。例年、冬季に増加していますので今後の発生動向に注意するとともに感染予防についての心がけが必要です。

また、全国においても増加傾向を示しており定点当たり患者数は0.91となっています。過去5年間の同時期と比較するとかなり多い状態が続いています。都道府県別の定点当たり患者数は、山梨県5.73、岡山県4.56、山形県4.44、岩手県3.59、群馬県2.58、熊本県2.58の順に多くなっています。

インフルエンザに対する一般的な注意としては、

- 1.外出時にはマスクを使用する。
- 2.帰宅時には手洗いとうがいを心がける。
- 3.睡眠を十分にとり、栄養に気を配る。
- 4.室内を適度な湿度に保つ。
- 5.人混みに出かけることをなるべく避ける。
- 6.早めに医療機関を受診する(受診する際には、マスクを着用する)。

ことが大事です。

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (49週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (49週)	全国 (49週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^(*) 7	539	9	576
	腸チフス	0	0	49	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	3,509	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^(*) 39	1	34
	A型肝炎	0	1	^(*) 160	0	136
	オウム病	0	1	33	1	39
	デング熱	0	1	71	2	45
	マラリア	0	0	65	2	73
	レジオネラ症	0	3	263	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	0	5	650	8	580
	ウイルス性肝炎	0	2	263	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	144	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	55	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	7	1,084	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	76	2	85
	梅毒	0	0	515	4	516
	破傷風	0	0	107	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	63	0	49
	急性脳炎	0	2	^(*) 166	1	164

* 1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

* 2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

* 3:平成17年第47週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

全国における全数報告感染症の発生状況 - iDWR2005年第47週、11/21～11/27より -

1類感染症: 報告なし	4類感染症: E型肝炎	1例	5類感染症: 急性脳炎	2例
2類感染症: 細菌性赤痢	A型肝炎	1例	ウイルス性肝炎(B型)	2例
腸チフス	レプトスピラ症	1例	後天性免疫不全症候群	8例
3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症	ライム病	1例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2例
30例	レジオネラ症	5例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例
4類感染症: つつが虫病	5類感染症: アメーバ赤痢	4例	クリプトスポリジウム症	1例
22例	ジアルジア症	1例		
デング熱	梅毒	7例		
1例				
オウム病				
1例				

2) 定点把握の対象となる5類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

(1) 疾病別・週別発生状況(第44～49週、10/31～12/11)

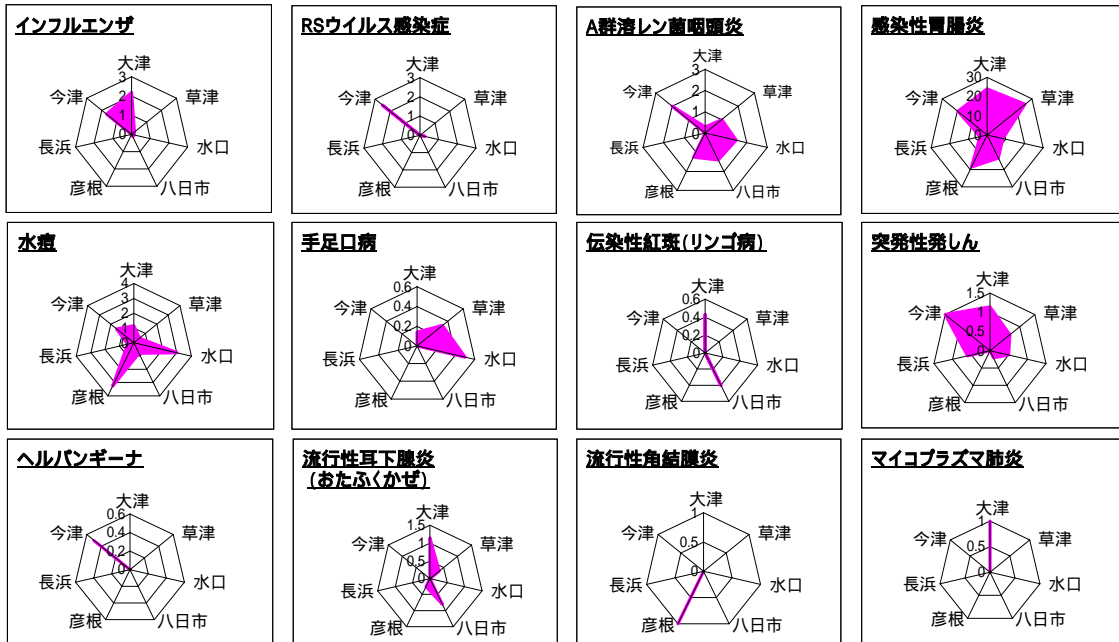
疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	44週		45週		46週		47週		48週		49週	
	10/31～	(11/7～)	11/14～	11/21～	11/28～	(12/5～)	45	46	47	48	49	
インフルエンザ	0	0	0.04	0.06	0.16	0.65						
RSウイルス感染症	0.06	0	0	0	0.06	0.18						
咽頭結膜熱	0.24	0.27	0.30	0.12	0	0.03						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	0.33	0.42	0.67	0.85	0.91						
感染性胃腸炎	5.79	8.03	12.12	13.18	18.00	16.73						
水痘	0.52	0.73	0.82	0.97	1.36	1.36						
手足口病	0.36	0.15	0.48	0.48	0.27	0.15						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.03	0.06	0.06	0.06	0.15						
突発性発疹	0.55	0.67	0.39	0.42	0.61	0.64						
百日咳	0.03	0.03	0.09	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0	0.03	0.03	0	0						
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.03	0.06	0.03						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.48	0.61	0.48	0.61	0.67	0.45						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.14	0.14	0.43	0.57	0.29	0.14						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	0.29	0	0	0	0	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第49週、12/5～12/11)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県全体)				
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津					
インフルエンザ	0.65	2.18	0.20	0.14	0.13	0	0	1.67	■	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.18	0	0	0.25	0	0	0	2.50	■	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50	■	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.91	0.29	1.00	1.50	1.40	1.25	0	2.00	■	-	-	-	-
感染性胃腸炎	16.73	24.00	25.33	8.25	13.40	18.50	3.80	19.50	■	-	-	-	-
水痘	1.36	1.14	0.50	3.00	0.80	3.25	0.40	1.50	■	-	-	-	-
手足口病	0.15	0.14	0.33	0.50	0	0	0	0	■	-	-	-	-
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.15	0.43	0	0	0.40	0	0	0	■	-	-	-	-
突発性発しん	0.64	1.14	0.67	0.50	0.20	0	0.60	1.50	■	-	-	-	-
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	0.03	0	0	0	0	0	0	0.50	■	-	-	-	-
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.45	1.14	0.33	0	0.80	0.25	0	0	■	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.14	0	0	0	0	1.00	0	0	■	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	0.14	1.00	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	■	-	-	-	-

0 3 6 9 12 15 18
定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の定点当たり患者数は上記のグラフのとおりです。インフルエンザの報告が増えつつあり大津からの報告が多くなっています。RSウイルス感染症は今津からの報告が多くなり、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は4週連続して増加傾向を示し、特に今週は彦根で急増しています。また、上記のグラフには示されていませんが、咽頭結膜熱は今津から報告されています。

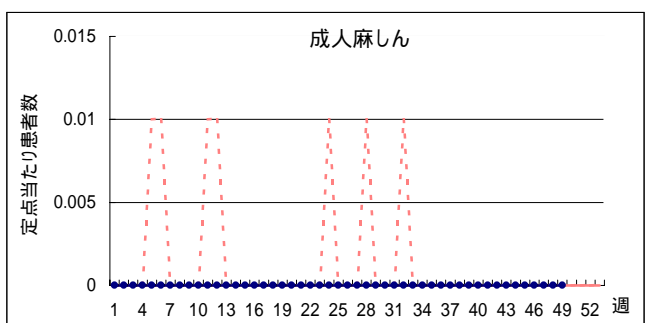
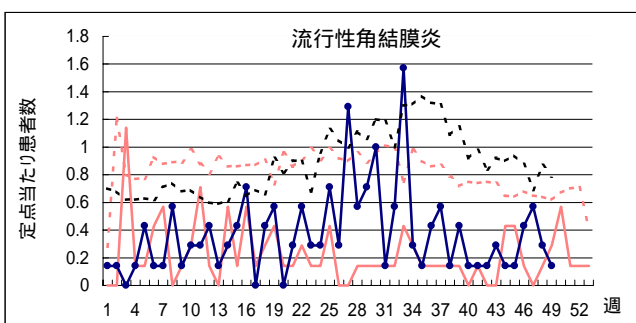
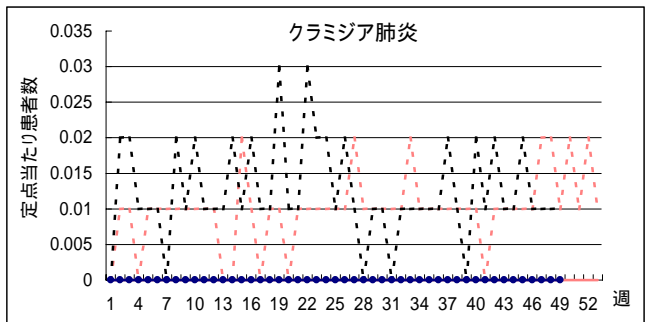
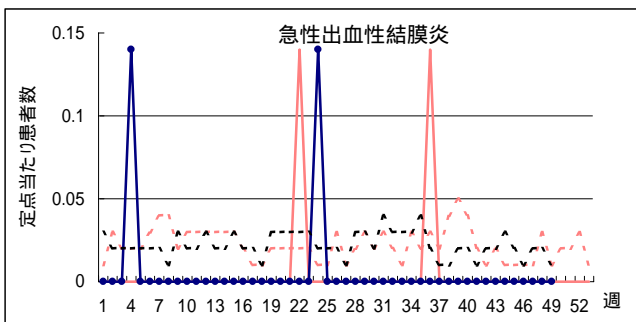
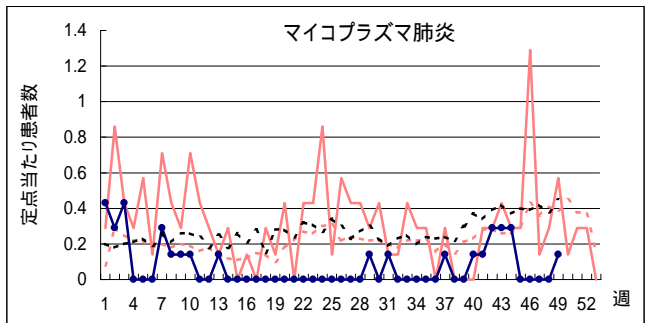
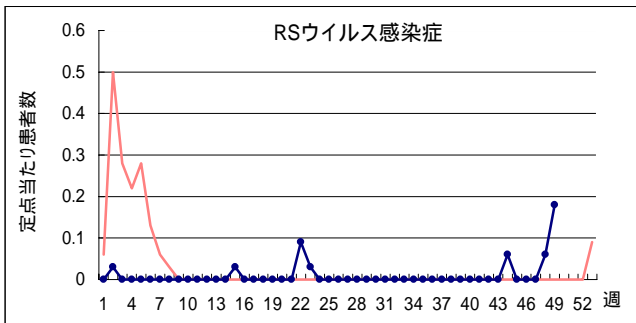
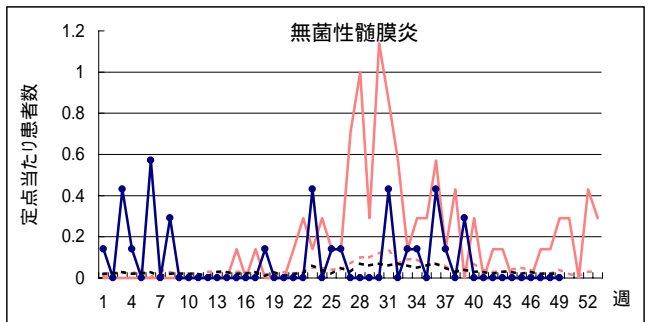
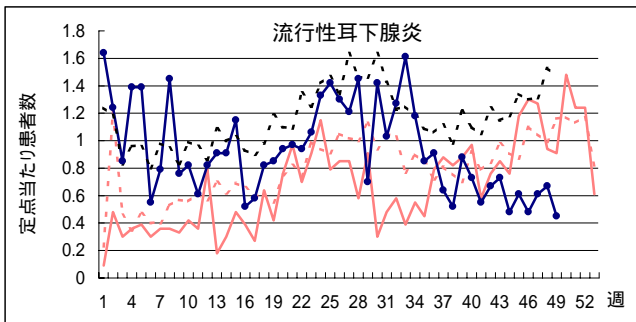
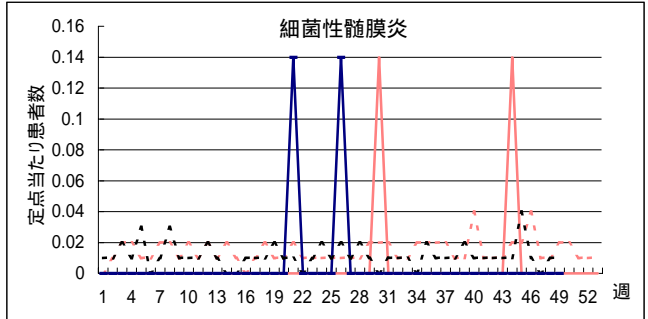
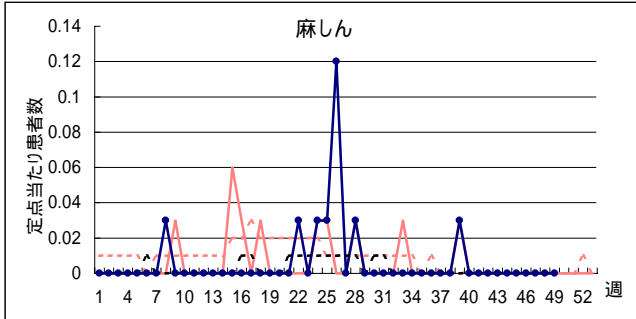
感染症のミニ知識 ~RSウイルス感染症~

RSウイルス感染症は、RSウイルス(respiratory syncytial virus)により起こる急性呼吸器感染症であり、乳幼児期の発症が多く、細気管支炎、肺炎などの下気道疾患を起こします。罹患年齢は、生後1年以内に50~70%の新生児が罹患し、3歳までにほとんどの小児が罹患し抗体を持っています。また、年長児や成人においても再感染はしますが重症となることは少ないです。しかし、高齢者においては重症の下気道疾患を起こすこともあり、特に、長期療養施設内での集団発生が問題となることもあります。

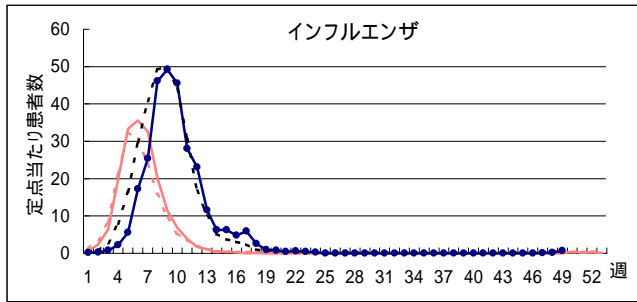
- ・感染様式: ヒト-ヒト感染 (接触あるいは飛沫感染)
- ・潜伏期 : 3~5日
- ・臨床症状: 発熱、鼻汁、咳、呼吸性喘鳴、陥没呼吸などの呼吸困難、無呼吸(新生児)
- ・治療 : 対症療法(輸液、去痰、酵素投与など)
- ・予防: 抗RSV単クローン抗体の投与 (流行開始前から流行期の間)
- ・合併症: 1歳以下では中耳炎を起こしやすい。
- ・予後: RSV細気管支炎に罹患後、長期間、肺機能の異常を起こすことがある。また、喘鳴を繰り返すこともある。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第49週、H17.1.3～H17.12.11)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第49週、H17.1.3～H17.12.11)



H16 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H17 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)

